

美術科学習指導案

日 時 平成29年 6月 1日 (木)
公開授業 I
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
1年D組 40名
会 場 美術室
授業者 高橋 知志

1 題材名 風景写生画の制作～木の〇〇を表現しよう～ (A表現：水彩による風景画の制作)

2 題材について

(1) 題材観

本校では毎年全学年で写生会の取り組みを行っており、夏休み前までの期間を使って授業の中で制作を進めている。写生会は学年ごとに午前中の時間帯を使って盛岡城跡公園に赴いて、実質2時間程度の取り組みとして実施している。また、現場での制作が短時間であることから、写生会中は各学級の担任が学級の生徒の構図の写真を撮って回り、そのデータを後日出力して生徒に配付して後日の制作の参考とさせている。このように、本校ではその日のうちに完成まで持っていく“全日”の取り組みにはせず、写生会後の授業の中で指導してきた経緯がある。

表現の主題については、学年ごとに異なる目標を提示して取り組ませていくことで自分自身の成長を確認させたいと考えている。実際には、第1学年では「木を主題として自分が感じた情感を生き生き表現すること」、第2学年では「画面全体の雰囲気や、奥行きのある構図で表現すること」、第3学年では学んできたことを生かして「残したい心の風景という主題で、風景描写に自分の主観を強く表現していくこと」というように、発展的に定めている。このように主題が異なるので同じ場所に行っても構図を決める観点が異なり、その学年ならではの作品作りとなっていく。また、授業では第1学年は「水彩画の基礎や計画的な取り組み方を学ぶ」、第2学年では「互いに教え合ったり話し合ったりしながら取り組む」、第3学年では「自分自身で考え、決定して取り組む」というように、取り組み方にも段階を設定している。

表現するにあたっては、生徒個々がなぜその風景を選んだのかということから構想を深めさせて臨ませる。写真はあくまでも参考資料である。手本を書き写すような取り組みで「表現のゴール」にすることはさせたくない。

さらに、3年間を通しての取り組みであることから、2回目、3回目と、自分自身の成長を自覚できるような、取り組みの記録の充実とふり返りの工夫もしていきたいと考えている。

(2) 生徒観

年度初めのガイダンスの時間で簡単な鉛筆描写をさせてみた。描きたい形に近づけていくために鉛筆でいわゆる「あたり線」を使って描く生徒はほとんどなく、また、筆圧を調整するなど鉛筆という画材の特性を活かした描き方もほぼ見られなかった。描画に苦手意識を持っている生徒ほどその傾向が強く、思うように描けないことについて、ではどうすればよいのかという具体的な取り組みが伴わないまま現在に至っているようであった。

写生会の取り組みであるが、主題である「木」について主題構想などの事前学習を行い、当日に臨ませた。その結果スムーズに取り組むことができた生徒が多く、作品も技術的に一定の水準に達したものが多く出ている。しかしながら、自分で定めた表現主題についての捉えが甘く、画用紙上の表現

とプリントに記述している表現主題との乖離が見られはじめている生徒もいる。主題を造形によって表現することについて、実感を伴う経験が不足しているためであろう。

授業には意欲的な生徒が多く、学習内容について新鮮な感動を味わいながら頑張ろうとする。中学校で初めて取り組む写生会をもとにした水彩による風景画の制作で、生徒一人ひとりに「できること」を少しでも多く増やしてやりたい。そうすることで、次年度以降も取り組むこの題材にポジティブなふり返りをさせることができればよいと考え、学習計画を構想していきたい。

(3) 「学びの本質」について

自分が表したいことを目標として持ち、それを作品にどのように表現していくかを構想し試行錯誤することが重要な活動となる。自分自身の行き先がわかること、そこにたどりつくまでの道筋をある程度イメージできること、そして今自分がどこにいるのかを把握すること、生徒一人ひとりの学び方である。その質を高め支えるのは、高い目標に向かっていこうとする意欲である。すなわち、美を愛好し表現活動に喜びを見出す姿であり、また、自己有用観に裏付けられた向上心である。

本題材に限らず、制作活動においては「主題」を大事にする。生徒の主体的な取り組みにしていくために材料や技法の目新しさをと見え、そこに焦点を置いた研究が行われることがあるが、それでは単なる材料体験で終わってしまう可能性が高く、主体性を育む教材としては不足である。

風景を題材にしても、どんな場所をどんな観点で選ぶか・その風景をどうトリミングして構図を工夫するか・部分によって描き込みの度合いを変えたり、色彩表現での工夫を行う等々、作者が表現活動の着地点を自らが定めて、そこに向かって様々な工夫をしていくということが重要である。

生徒が、自分に合った表現方法について、学習したことから様々な発見をし、知っていることやできることを蓄積していくこと、そして“自分の引き出しの中身”を増やしていくことで、表現の幅が広がっていく。大事なことは制作過程で生徒自身が自信をもって自己決定していくことである。故に授業の中では生徒同士の表現や意見、感じたことなどを交流する場を積極的に設け、相互に学んだり認め合ったりすることを通して、「自分なり」というものを自覚する契機にしていく（悪い意味での“自己流”とは異なる）。

中でも活用したいのが「ふり返しシート」である。一斉授業で示す学習課題（学習テーマ、めあて）を受けながら、生徒個々が「今日はここをがんばってみたい」というような個人課題をもって授業に臨み、その時間の振り返りが次の時間に確実につながっていくように工夫してみた。また、生徒が気付いたことを自由に記録できるような記述欄を広く取ることで、自主的に自分の取り組みを改善していく学習材料としていきたい。つまり、生徒がどのような学び方をしているかが指導者にも見える形を模索していきたいと考えている（別紙資料参照）。

3 題材の指導目標

(1) 指導目標

- ①木を主題にすることにより、身近な自然のよさや美しさに対する関心を持たせるとともに、意欲的に美術の基礎的能力を身につけていこうとする態度を養う。
- ②豊かに発想し構想する能力を育み、形や色の構成を工夫して自分らしい表現させる。
- ③形体や色の表し方など基礎的技能を身につけさせるとともに、感性や想像力を働かせて表現意図に合う多様な表現方法を工夫させる。

(2) 評価規準

美術への関心・意欲・態度	①身近な自然からよさや美しさを発見して関心を持つとともに、意欲的に美術の基礎的能力を身につけて、それを生かした表現活動に取り組んでいるか。
発想や構想の能力	②主題をもとに豊かに発想し、形や色の構成を工夫して自分らしい表現を構想しているか。
創造的な技能	③形体や色の表し方など基礎的技能を身につけ、感性や想像力を働かせて表現意図に合う多様な表現方法を工夫しているか。

4 題材の指導計画及び評価計画

時間	主な学習内容と学習活動	評価規準	評価方法
1	○ガイダンス ・写生会の取り組みについての概要を理解する (主題や当日の日程, 留意事項等について)		
2	○写生会当日の取り組み ・主体的に描きたい場所を選定し描き始めることができる。 ・木から感じたことを大事にしながら自分らしい画面構想をし, 下描きを進めることができる。	① ② ③	観察法・作品法 観察法・作品法 作品法・自己評価法
4 本時 4 / 4	○下描きの取り組み ・当日のふり返りをもとに, 自分の主題を確認し深める。 ・表したい主題を強調するために, どのような工夫をしていきたいかを考える。 ・対象物の主従の関係を考えながら描き込みを進める。 ・全体の感じをつかむようにあたり線を効果的に使って形体を描写していく。 ・細部を確認しつつ強い線も使用して下描きを仕上げる。	① ② ③	観察法・作品法 観察法・作品法 作品法・自己評価法
7	○彩色の構想 ・主題を表現していくための色彩表現の多様性を知り, 表したい主題から色彩の構想を進めていく。	① ②	観察法・作品法 作品法・自己評価法
	○彩色活動 ・彩色の計画を立て, 基礎的な技能について, できることやできないこと, できるようになりたいことなどをまとめ, 今後の課題設定をする。 ・遠景から彩色していく。 ・重色や混色で色彩を深め, 主題に迫っていく。 ・完成度を高めていく。	① ② ③	観察法・作品法 観察法・作品法 作品法・自己評価法
1	○まとめる ・自分で定めた個人課題についてふり返る。 ・相互に鑑賞する。 ・取り組み全体をふり返り, まとめる。		

※評価について、「作品法」には学習プリントの整理状況・記述内容を含む。

5 本時について

(1) 主題 「下描きの取り組みをまとめ、彩色の活動に備えよう」

(2) 指導目標

絵具を使った表現活動に移行していく、下描きの最終時間という位置づけである。絵画の下描きは、どこまで描き込めばいいのか明確な定義が難しいもので、実際には表現者によって描き込みの度合いは異なるものになる。したがって、教師が「ここまで」という具体的な指示や指定をするものではなく、「絵筆を持ったときに困って手が止まるようなことがないように」ということを理解させることが大事である。

本時は「自己診断シート」を用いたふり返りのポイントに設定している。下描きの4時間の活動で学んだことや気づいたことをまとめながら、生徒が彩色活動のイメージが持てること、作品の下描きとして「これでよし」という判断を自分で自信を持って下すことができるようにさせることを目標としたい。

(3) 本時の評価規準

- ・ふり返しをもとにして自身の成長を確認するとともに、今後の課題点を浮き彫りにしてその解決・解消に向けた意欲を持つことができる。
- ・彩色活動の見通しが持てるような意識をもって下描きを進め、下描きの完了を自分で判断することができる。

(4) 指導の構想

導入段階では

個々がこれまでの取り組みで直面している課題を出し合い交流することで自分自身を見つめなおし、適切な個人課題を設定できるようにさせたい。また、課題設定についての捉え方にズレのある生徒のために、自己診断シート中の該当項目を表示しておく。

展開では

まずは全体の予定を確認し、次のステップが彩色の活動であることを意識させた上で、下描きの完了をどう判断するか考えさせたい。ポイントは「絵具での表現に移行したときに困ることが最小限になること」である。どうなれば完了の判断を下すことができるか、生徒からは複数の観点が出されることを期待している。そうして出された観点を共有し、自身の活動を見直して適切な個人課題を設定できるように促していきたい。

制作活動では、前時までの観察やふり返しシートの記述内容からピックアップした要支援の生徒を中心に机間指導を行う。制作時間の途中で下描きの完了を判断できた生徒については、ふり返しシートに学習内容の整理をさせたり、彩色手順の構想など次のステップに進んでよいことを伝える。この判断が適切であったかどうかは、実際に彩色の活動に取り組む生徒の姿をみればわかってくるが、この時間では生徒がどのようなことを観点として自分の作品と向き合っていたかを大事に、発言や記述等から見取っていきたいと考えている。

まとめの段階では

ふり返しシートを用いて個々に成果と課題を確認させる。具体的にどんな課題をもって取り組んだのか、その結果どうだったのかを複数名に発表させ、全体化を図っていく。このとき、発表者と教師だけのやり取りにせず、他の生徒にもコメントを求めて膨らませていくような配慮を大事にしていきたい。また、最後に自己診断シートによる自己評価をさせ、学習結果を自覚させる時間を設けることにしている。

(5) 本時の展開

段階	学習内容及び学習活動	時間	■ 学びの本質に迫る指導と評価に関わる留意点
導 入	0. 3分前学習 ・ふり返しシートを黙読し前回までの個人課題を再確認する。		
	1 活動のふり返しと課題の確認と交流 ・学んだことや課題としていることを発表しあうことを通して、認識を深める。 2 本時の課題把握	5	■ 主体的な学びの構築 ・意見交流による自己肯定感 ・他者からの学び
下描きの取り組みをまとめ、彩色の活動に備えよう			
展 開	3 下描きの完了について考えを出し合う。 思考のキーワード ・描くものが全て描いてある必要は？ ・細かいところまで描き込むのか？ ・陰影も描かれている必要は？ ・完了の判断は誰がするのか？	13	■ 対話的な学びを意図した指導。 → 生徒の発言から導いていく
	4 個人課題を確認する。 ・前回からの継続でも、新たな気付きをもとにしたものでもよい。	2	■ ふり返しシートに明記させる。
	5 制作活動 ・下描き完了の条件を意識して加筆修正をする。 ・完了と判断したら、次のステップに進む。	20	■ ポイントを押さえた机間指導 ・前時の机間指導メモ ・ふり返しシートの記述からピックアップした生徒
終 結	6 まとめる ・取り組みをまとめ、発表しあう。 〔やりたいことがどの程度できたか まだ課題になっていることは何か 他者の取り組みから気づいたこと〕 ・自分自身にどのような成長があったか、自己診断シートで自己評価 ※項目1～9について行う。	10	■ 課題の自覚化と主体的な学びの再構築 ・自己評価と主体的な学び ・意見交流による自己肯定感 ・他者からの学び

いっしょの写生会

木の〇〇表現いっしょ

3月18日(土)17時

1月組 森島

今までのいっしょの作品に対するために……

写生当日を終えて

おもしろいのは
木の _____ でした

文の上手な使用のために

"最高の下書き"をめぐって

困ったこと、知ったこと、わかったこと、できたこと

友達の取りくみが多かったこと

友達の取りくみは"自己紹介シート"で

①	月	日	⑦	月	日
②	月	日	⑧	月	日
③	月	日	⑨	月	日
④	月	日	⑩	月	日
⑤	月	日	⑪	月	日
⑥	月	日	⑫	月	日

写生会3年間の歩み【自己診断シート】

岩手大学教育学部附属中学校

自己評価項目	学年	1年			2年			3年		
	日付	/	/	/	/	/	/	/	/	/
1 過去の体験を生かして「今までで一番」の作品にしようという気持ちがある										
2 主題を大事に考えて描く場所を決めることができる										
3 表現したいことを大事に考えて、省略や強調をしながら下描きの構想ができる										
4 色彩を想定した線による下描きができる										
5 線遠近や空気遠近を理解して画面構成をすることができる										
6 根気強い観察による描写ができる										
7 視点の効果を考え、どのアングルで描くかの構想ができる										
8 よりよいデッサンのために「補助線」を活用して形を描くことができる										
9 筆圧を調整しながら下描きの線を描くことができる										
10 絵の具や筆など、道具がきちんとそろっている										
11 自分の作品について、彩色の段取りをある程度イメージできる										
12 主題を大事にした色彩のイメージを持って取り組んでいる										
13 パレットを上手に使用して制作できる										
14 筆ふきを上手に使用して制作できる										
15 描く場所や描き方によって筆を使い分けることができる										
16 混色によってオリジナルの緑色を作ることができる										
17 「附中ブラック」を混色で作ることができる										
18 補色を使った色みの調整ができる										
19 重色に使う不透明な絵の具の作り方を知っている										
20 場所によって濃い絵の具と薄い絵の具を使い分けることができる										
21 空の色彩をウォッシュの絵の具で彩色できる										
22 点描で描くことができる										
23 画用紙の粗目を利用してドライブラシで表現できる										
24 ぼかしやにじみを意図的に利用して表現できる										
25 「次」を意識した制作過程を自分で考えることができる										
26 陰影だけでなく、光が当たって明るい部分も意識して表現できる										
27 木の葉や幹の感じを重色で表現できる										
28 石垣や地面の感じを重色で表現できる										
29 他者の作品から学び、自分の取り組みに取り入れて向上しようとしている										
30 自分で研究しながら、できることを増やしていこうという意欲がある										
31 水彩画の制作に関する基本的な用語の意味を理解している										
32										
33										

※各項目について4段階（できる4～課題がある1）で自己評価しよう。
 ※32、33は自分で気づいた観点を書き込んでいこう。

合計点

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

1年目のふり返り

1年 組

2年目のふり返り

2年 組

3年間のふり返り

3年 組 氏名